



一宮歩こう会 青春の東海道歩き

# がわら版 17号

12月18日、第10ステージは本隊が名鉄東岡崎駅から御油まで。観光隊は名鉄美合駅から藤川の松並木や資料館を見て山中駅まで歩き、そこから赤坂まで名鉄電車に乗るキセルウォークである。赤坂、御油では手作りのちょんまげを頭にガイドの小笠原さんの案内である。聞けば御油は市町村合併で豊川市になったが豊川市での辺境の地 御油ではたった一人の観光ガイドだそうで、パンフレットも手作りだとか。話も面白く健闘をたたえたい。

この「青春の東海道歩き」は、JRの絶大な協力を得て実施しているからほとんどJRの在来線を利用するか、JR東海バスを利用しているが、10月の第8ステージから12月の第10ステージは名鉄電車を利用する。JRが東海道を大きく外れた場所を走っているが名鉄はほぼ東海道の宿場を縫うような路線だからである。路線から

明治から大正にかけての鉄道敷設の歴史を垣間見る事が出来る。

名鉄電車の歴史から

名古屋鉄道の前身、愛知電気鉄道は、神宮前駅を起点に有松線、岡崎線、豊橋線と名を変えながら豊橋へ向け1917年から1927年にかけて順次延伸された。

沿線は東海道の宿場町として栄えており、当初は鉄道建設は反対であった。そのため、国鉄の東海道線は豊橋駅を出ると、東海道から外れ、蒲郡駅を経由する海岸沿いを走っている。東海道線が開通すると、東海道沿いの宿場町は一気に廃れてしまい、鉄道の力を思い知らされることとなった。愛知電気鉄道が同線を開通するに当たり、地元は積極的に鉄道誘致に動いたため、土地買収等がうまくいき、並行して走る東海道線とは違い比較的直進するような路線になっている

